

平成 22 年度日吉ダム環境学習会 開催報告

平成 22 年 10 月 27 日（水）の午後、日吉ダム防災資料館（ビジターセンター）及び日吉ダムの貯水池左岸にある千谷川周辺（原石山跡地の一角）において、今年度の日吉ダム環境学習会を開催いたしました。

千谷川周辺を含む原石山跡地は、平成 13 年度に策定された日吉ダム水源地域ビジョンにおいて自然観察の場を提供するビオトープとして位置づけられており、必要な整備を行いながら有効活用していく計画となっています。

今回の学習会は、次の 2 つを目的として開催されました。

- ① ビオトープの現状、及び既に方向性が示されている今後の整備内容について、現地で確認する。
- ② 今後の維持管理のあり方について、望ましい方向性を参加者間で議論する。

当日は、日吉ダム管理所の職員のほか、近隣事務所や、水源地域ビジョンの委員の方々を中心に 17 名の参加がありました。

講師として、現地のことを熟知している（株）環境調査技術研究所の田賀陽介（たが ようすけ）氏を招き、次ページ以降に示す 3 つのテーマについての説明・討議、および現地踏査を行いました。



小野寺日吉ダム管理所長の挨拶



熱弁を振るう田賀講師

(1) 千谷川周辺に見られる植物群落の現状と遷移

現在はススキ群落の中にアカマツが生育している場所が多く見られること、今後はアカマツ→コナラ林、落葉広葉樹林を経て常緑樹林へと長い時間をかけて遷移していくこと、維持管理における手の入れ具合により、ビオトープの維持管理に関わる人たちが望む状態を維持することが可能であることが説明されました。

現地ではアカマツの樹齢の数え方(一節が一年の成長分に相当)の説明もあり、参加者はその簡便さに感心していました。



ススキ群落の中に生えるアカマツの幼樹



アカマツの樹齢の数え方の説明

(2) 千谷川周辺のビオトープ計画

管理用ゲートの入口から、蛍の幼虫の餌となるカワニナが多数生息する池や千谷川の上流へアクセスできるルートを確認すること、木で最小限の土留めや護岸を施工する計画であることが説明されました。

カワニナが多数生息する池を現地で見た参加者は、カワニナが水底を這い回った跡を見て一様に驚いていました。また、蛍の観察会を開催すれば面白いのではないかと声も上がりました。



計画の説明に耳を傾ける参加者たち



カワニナの這い回った跡を見て驚く参加者たち

(3) 千谷川周辺の維持管理方法の望ましい形

年に一度程度はツル性植物の除去や歩行ルートの確保のための草刈をした方が良く、それには水機構だけでなく地元の方々の協力がある方が、“自分たちが管理している場所だ”と愛着が湧いて望ましいという考え方が示されました。

参加者からは、「地元の人々は自分の山も十分に管理できないので、それは難しいのではないか」という意見も出ましたが、現地は植物の自然な遷移過程がよく表れていて貴重だとした上で、「あまり気張らずに、草刈後に語らいながら弁当でも食べるようなイベントを実施していくことで、規模は小さいながらも持続可能な維持管理ができるのではないか」という考え方も紹介されました。

開催後に実施したアンケートでは、学習会の内容を好意的に受け止める参加者が多く、全体の 8 割近くが「環境に対する意識が高まった」と答えました。一方で「もっとたくさんの地元の人々の参加を望む」という意見もあり、今後は地元住民の方を巻き込んだ取り組みを進める必要があります。

日吉ダム管理所では、学習会で得られた成果を基に、望ましい維持管理方法について検討し、今後の施策に活かしていきます。

最後になりましたが、講師を始め本学習会の開催にご協力いただいた方々に、紙面をお借りして深く御礼申し上げます。



学習会当日の原石山跡地（晴れた空の下、ススキが池に映えていました）